

つくろう 伸ばそう 鹿沼の文化

かぬま文化

No.174

発行人 鹿沼市文化協会
発行責任者 会長 鈴木 貢
編集委員会 委員長 黒川 榮三
印刷所 晃南印刷(株)



新春の令和5年1月21日に福田屋コンベンションホールにて、昨年同様にコロナ対策を講じ、「令和5年新春のつどい」を開催しました。会員など56名が参加し、新年を迎えた喜びを皆さんと分かち合い、交流を深めました。

会は、高橋進副会長の開会の言葉で幕を開け、鈴木貢会長の主催者あいさつのあと、佐藤信市長、大島久幸議長、小林幹夫県議、片柳伸一商工会議所会頭から新年を祝うあいさつと、白石氏の文芸賞受賞を称える言葉をいただきました。

さらに、松井正一県議、宇賀神敏市議、石川さやか市議、阿部秀実市議、岩本久美子各参与のご紹介をし、西山義信参与の乾杯で

祝宴に移りました。

今年は令和4年度に栃木県芸術祭川柳部門の文芸賞を受賞された文化協会会員の白石洋氏をお招きし、「かぬま川柳会」の松本と会長より受賞を称え、花束を贈呈しました。白石様から、受賞した喜びのお気持ちと受賞作品をご披露いただきました。その受賞内容や作品について、今回の会報の4頁にご本人が投稿されておりしますので、ご覧ください。

祝宴のアトラクションは岩井流舞踊会と藤扇丞花会社中のみなさまによる、艶やかな舞踊でした。会は神永雄一副会長の閉式のことばでお開きになりました。

(事務局 福田由子)



佐藤信鹿沼市長



鈴木貢会長



福田屋コンベンションホール会場



県芸術祭川柳部門文芸賞受賞 白石洋氏

新年あいさつ

新年あけましておめでとうございます。

本年度の文化協会の活動は、新種の「オミクロン株」の感染拡大によりまして、視察研修など多くの事業を中止せざるを得ませんでした。しかし、「第44回鹿沼市民文化祭」では、開幕式と藤石波矢トークショーを始め、24事業のすべてが作品の発表や演技を披露することが出来ました。

平和が脅かされ、経済不安など激動する中で、コロナ禍も4年目に入り不安や困難な状況が続いています。が、このような時こそ芸術や文化活動を通して、大局観や歴史観を見つめなおすことによりまして、心が穏やかになり、共に支えあう共生の社会が開けていくと確信しています。

人々は、芸術や文化活動によって、自然や生活環境に適応する能力を育んできました。令和4年度鹿沼市

目次	
令和5年新春のつどい	1
新年あいさつ	1
鹿沼吟詠剣詩舞会	2
竜恵脩会	2
日本舞踊連合会	3
いちご一會歌謡会	3
栃木県文化振興大会	4
かぬま川柳会	4
編集後記	4

民文化祭の成功もその一つであります。令和5年度の文化祭開幕式には、鹿沼市生まれで、日本の時代小説家で、NHK総合テレビ、毎週日曜放送「大富豪同心」の原作を書かれた幡大介さまをお迎える予定です。皆様のご協力・ご参加をお願い致します。

結びに、春の訪れと共に、「花が咲き、やがて実を結ぶ」よう地域文化が実る令和5年になりますことと、皆さまの益々のご健勝を心から祈念をしてあいさつと致します。

鹿沼市文化協会会長

鈴木 貢



鹿沼吟詠剣詩舞会について

鹿沼吟詠剣詩舞会会長 水沼 栄二

鹿沼吟詠剣詩舞会 は、市内の詩吟の5流派と剣詩舞2流派で構成されています。団体としての主な活動内容は、主催する鹿沼市民文化祭への参加であります。昨今新型コロナウイルスの蔓延や会員の高齢化等により、趣味の会の会員数が減少しているとの



平成4年度 鹿沼市民文化祭にて

状況が伝わって来ますが、吟詠剣詩舞につきましても同様で、今年の吟詠剣詩舞大会の開催も危ぶまれておりました。

このような状況の中、大会の出演者数は前回の62組から57組へとやや減少したものの、何とか開催にこぎつけることができました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

ここで紙面をお借りし、私ども高齢者にとつて、座右の銘ともなるべき素晴らしい詩に出会いましたのでご紹介します。

「天寿の花 作者不詳
五十の才は

人生の半ばなり
七十にして矍鑠たり
壮年を凌ぐ

八十の坂は
静かに風月を楽しみ
百歳を全うして

天寿の花と香らん」

皆様、人生百年！天寿の花を咲かせて人生を大いに楽しみましょう。

楽しいけいこ場にする為に

竜恵脩会会主 高橋 竜恵脩

令和5年もやっばり、コロナ禍の年明けになってしまいました。そして1月15日は日本でコロナ感染が確認されて、丸3年になりました。もうコロナという文字も言葉もいやになって来ましたが、まだまだおさまりそうありません。

私達の会もコロナに負けずけいこを続けようと決め、毎週感染に注意をしながら集まり、なるべく腹の底から声を出し、元気にけいこを続けています。何しろ高齢者の多い会なので、集まる・けいこをする・は大変意義があり、アンチエイジングです。

昨年は市民文化祭にも参加することもでき、また、2月11日に行われる、文化センターの会自主事業の「民謡民舞の集い」にも出演予定なので目標ができて、けいこにも弾みます。もちろん上

く復活できるよう、その時の為にもけいこは頑張っ続けていきたいものです。

個人的には鹿沼民謡民舞連合会の代表をやらせていただいておりますので、連合会としても何か新しい事業を計画し、少しでも前進していけるよう、みんな考えていきたいと思っています。



特別養護老人ホーム花の風にて

秋の舞踊まつり

日本舞踊連合会副会長 篠原 敏江

平成7年、故藤花流家元藤花鷹光氏の下、当時6流派の舞踊の会により「鹿沼市日本舞踊連合会」を結成し、文化協会に入会いたしました。翌年、平成8年5月には、第1回「日本舞踊連合会舞踊の会」として発表会を催しました。年毎に会を重ね、昨年11月6日には、第27回の発表会を開催できました。

発足当初の発表会の演目は、日本古来の、歌舞伎舞踊の伴奏曲の長唄・清元・大和楽などで、端唄・小唄なども加え、三味線や笛・太鼓・鼓などに合わせて踊る、古典舞踊に限定して行いました。以後数年は、その内容で続けて参りましたが、古典舞踊の踊りだけでは変化に乏しく、更に妙技に欠けてしまったことなどを考慮し、新舞踊や民舞など身近な曲も取り入れながら、行うことになりました。

平成7年、故藤花流家元藤花鷹光氏の下、当時6流派の舞踊の会により「鹿沼市日本舞踊連合会」を結成し、文化協会に入会いたしました。翌年、平成8年5月には、第1回「日本舞踊連合会舞踊の会」として発表会を催しました。年毎に会を重ね、昨年11月6日には、第27回の発表会を開催できました。



平成29年 東京日本橋劇場にて

の中にあっても、舞踊はひとり舞が多いので、無観客など対策を試みながら、3密を避け、発表会をこれから思っています。

日本古来の伝統芸能である舞踊と、それには欠かせない和服の伝承にも関わりながら、微力ではありますが、少しでも後世への橋渡しになればと願っています。

あなたが主役!!をテーマに開演
いちご一会歌謡・舞踊発表会

いちご一会歌謡会会長 上岡 文字

先人に引き継ぎ、私達新役員になつてから初めての発表会を滞りなく終えることができて、ご出演者はじめご協賛いただきました皆様、ご協力を下さったスタッフの皆様にも深く感謝申し上げます。

コロナ禍の中での一般の発表会、102名の皆様の素晴らしい歌声に感動し癒されたのは、私だけでしょうか。ご参加いただいた皆様にとつても、まさに「歌はオアシス」である実感させられたこととご推察申し上げます。

さて、昨今の歌謡界は著しい変貌を遂げております。このような発表会が、いつまでもシニア世代を中心としたノスタルジックな大会であつてよいとは限りません。

私達はそれらを鑑みて、今般、特に若い皆様にご参加を呼びかけ

てきました。

歌謡の定義領域は広く、この様な大会を持続させてゆくには、将来的にアニソンやポップス等ニューミュージック系の若者達を巻き込んで行くことも不可欠であると認識しております。

また、コロナ禍や戦争など予測不可能な

リスクを背負って生きて行く時代となった今日、私達にとつて「歌う」とは、安らぎと癒しを得るばかりでなく、歌を通して人々との温かい交流、助け合いの「和」を広げるメリットもあります。

私達「いちご一会歌謡会」は、これからも歌を愛する人達とともにあります。

今後とも深いご理解とご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。



平成4年度 鹿沼市民文化祭にて

『栃木県文化振興大会報告』 地域文化を堪能する

鹿沼市文化協会会長 鈴木 貢

第46回栃木県文化振興大会は、12月21日、那須塩原市黒磯文化会館で開催され、鹿沼からは11名が参加しました。

文化振興大会は、県民の文化活動に携わる関係者が一堂に会して、文化の交流を通して地域文化の振興を目指しています。

記念式典では、栃木県文化協会主催者あいさつ



主催者あいさつ



三本木獅子舞



箏曲：前川智世氏 尺八：福田智久山氏

式典閉式後に、文化奨励賞を受賞した箏曲の前川智世氏と令和2年度受賞者の尺八の福田智久山氏（ご夫妻）による宮城道雄が作曲した「春の海」の特別演奏がありました。

アトラクションは、

「三本木獅子舞」が演じられました。

この起源は明らかではありませんが、鹿沼市の旧西大芦村の「関白流獅子舞」から「文挟流獅子舞」を経て伝授され現在に至っているそうです。

続いて、津軽三味線の棚瀬敬太氏の演奏がありました。

茶会に於いてお茶をいただき、受賞作品の特別展示や那須塩原市文化協会の皆さまの作品を見学して地域文化を堪能した一日となりました。

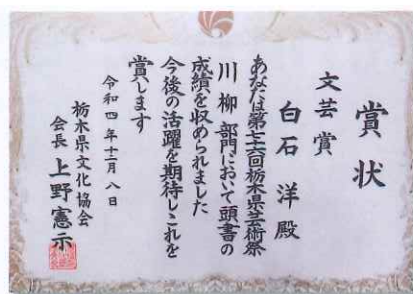
「非日常」を視点に

かめま川柳会 白石 洋

長年、県芸術祭の審査をして目につくのが「生老病死」にまつわる「老い」「余生」「病い」など、身につまされるテーマばかり。作品まで高齢化が進んでしまった。この際、「非日常」を軸にして詠もうと。老兵最期の挑戦だった。

なお、最後の2句は、作者の心境なのでは？

と言われた。当たらずとも遠からずである。



第76回(令和4年)栃木県芸術祭川柳部門 文芸賞受賞作品

紙一枚

楮から卒業証書までの旅
天敵を演じる紙とシュレツダー
破る裂く升目とペンが対峙する
奈落へと舞台の雪が舞い落ちる
一枚の辞令号砲鳴るレース
調印へ舞う紙吹雪飛ぶ磔
木簡と羊皮紙照らし出した闇
三行で生涯括る訃報欄
灰になるまでは死ねない紙の意地
燃え尽きる紙がいのちを震わせる

編集後記

昨年12月に、黒磯文化会館にて第46回栃木県文化振興大会が開催され、文化協会の役員が参加しました。鹿沼にとどまらず、栃木県内の芸術、文化の交流に花が咲き、有意義なひとときとなりました。

残念な悲しい報告と致しましては、鹿沼市文化協会に多大な貢献をされました、山菅昭八名誉会長と、小林守前副会長がご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今年は癸卯（みずのとう）うさぎ年です。この飛躍の年に、新春のつどいが開催されました。コロナ感染防止のために、黙食と会話はマスク着用。第76回栃木県芸術祭川柳部門にて、白石洋氏が文芸賞を受賞され、受賞の喜びと作品をご披露していただきました。誠にありがとうございます。

今年こそ、鹿沼の文化芸術の飛躍の年にと、願っています。

（編集委員 板橋 和子）

《編集委員会》

黒川 榮三
板橋 和子
寺崎 昌子
小崎 夏江
斎藤 千恵子
大貫 宗正